

科目コード:140001

臨床推論・臨床判断演習

Clinical reasoning / Clinical judgment Exercise

担当教員	寺井梨恵子、岩佐和夫、石井和美、石川倫子、木田亮平、田村幸恵、瀬戸清華、千田明日香、浅谷純菜												
実務経験	担当教員全員に臨床経験がある。												
開講年次	2年次後期			単位数			1		授業形態			演習	
必修・選択	必修			時間数			30						
該当ディプロマポリシー	(1)		(2)	○	(3)	◎	(4)		(5)		(6)		
Keywords	臨床推論、臨床判断、シミュレーション												
学習目的・目標	【学習目的】 看護師が患者の身体状況を的確に把握するために、臨床推論を行い、緊急度や重症度を判断し、患者の状態にあった的確な看護ケアを提供できる力を養う。この過程で、臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を身につける。 【学習目標】 1. 臨床判断と臨床推論とは何かを理解し、その関係を理解できる。 2. 臨床現場で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断過程を思考できる。 3. 臨床現場で遭遇しやすい症状の事例展開を通して、臨床推論ができる。												
授業計画・内容													
回	内容												
1	1. 臨床判断 1)臨床判断とは 2)臨床判断の構成概念 3)臨床判断のプロセス 4)看護過程と臨床判断の関連												
2～3	2. 臨床判断の実際 臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を臨床現場で遭遇しやすい事例で体験する。【事前課題】【事後課題】												
4	3. 臨床推論 1)臨床推論とは 2)臨床推論の方法												
5～8	4. 臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の実際 1)頭痛のある患者 2)腹痛のある患者 など 【事前課題】【事後課題】												
9～15	5. シナリオシミュレーション演習 1)腹痛・咳嗽・発熱を主訴とした3事例 (1)シナリオ作り (2)シナリオ修正と練習 2)シナリオの発表(演示) 3)ピア評価 【事前課題】【グループ課題】 【事後課題】												
教科書													
参考図書等	井上智子、窪田哲朗編集:緊急度・重症度からみた症状別看護過程 第4版、医学書院 三浦友里子、奥裕美著:臨床判断ティーチングメソッド、医学書院												
評価指標	筆記試験(40%)、課題(30%)、グループ貢献度(30%)で評価する。												
関連科目	解剖生理学、解剖生理学実習、人間病態学・演習、疾病・障害論、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習Ⅱ												
教員から学生へのメッセージ	臨床看護師の思考のように患者さんを見て気づき、解釈する。その上で実施し、自らの実践を振り返る。このような思考と一緒に身につけていきましょう。												